

令和5年度性教育検討委員会 議事概要

日 時 令和6年2月15日（木） 午後1時30分～2時30分

場 所 小田原市役所 6階 601会議室

出席者 性教育検討委員：医師4名、助産師1名、中学校長1名、中学校養護教諭2名、
教育指導課指導主事1名 計9名
事 務 局：保健給食課長、保健係長、主査 計3名

議 題

- (1) 委員長及び議長の選出について
- (2) 令和5年度の性教育講演会実施報告について
- (3) 令和6年度性教育講演会について

結 果

- (1) 委員長及び議長の選出については、医部会長に依頼した。
- (2) 令和5年度の性教育講演会実施報告については、目的を果たしていると評価された。
- (3) 令和6年度性教育講演会については、6月以降で実施し、新型コロナウイルス感染症の分類が5類になったため、市外の講師をリストに1人追加し依頼することとなった。

議事概要

1 開会

2 あいさつ

事務局： 日頃より、本市の学校保健事業にご理解とご協力をいただいていることに、厚くお礼申し上げます。

近年は、パソコンやスマートフォンだけでなく、タブレットや通信のできるゲーム機器が中高生はもちろん小学生にまで普及し、子どものSNSへのアクセスにより、性犯罪被害に巻き込まれやすい状況にある。

また、2023年の民間の調査（「性と恋愛 意識調査 2023」15-23歳の5,800人を対象とした調査 by JOICFP）によると、若者の半数以上が性に関する情報源をネットやSNSから得ているとのことだが、情報のあふれる社会の中で、自分の求める正確な情報を選択することは、若者に限らず難しい状況にある。

このような中、学校における性教育では、子どもたちが自身を大切に、主体的に正しい情報を得たり、信頼できる人に相談しながら、自ら考えて判断し、適切に行動できる力を身につけることが求められている。

本市では、昭和63年より性教育の専門講師の方々に各中学校へ出向いていただき、性教育に関する講演会を実施している。

今年度は予定通り講演会を進めていただき、既に9校が終了している。

思春期の子どもたちにとって、今後の人生を自分で決めて行動するための知識を得るためには、この性教育講演会は非常に意義深いものであり、今後是非継続していきたいと考えている。

本日は、委員の皆様にはそれぞれの立場から活発なご意見をいただき、この「性教育講演会」が今後もより一層効果的な事業となるよう、検討をお願いします。

3 議題

(1) 委員長及び議長の選出について

事務局： 委員長の選出だが、性教育検討委員会要項 第4条第2項により「委員長は前条（1）『小田原委員会が推薦する委員』の中から互選により選出す。」となっている。また、第5条第2項により「委員長は会議の議長となる。」となっている。委員の皆様から立候補はあるか。

(立候補なし)

事務局： 無いようなので、事務局案を提示させていただきたい。

(異議なし)

事務局： 事務局案として、例年、学校医部会長に委員長をお願いしているので、医部会長にお願いするのはいかがか。

(異議なし)

事務局： 皆様のご賛同をいただいたので、委員長を医部会長にお願いし、議長として以後の議事進行をお願いしてもよろしいか。

(医部会長了承)

(2) 令和5年度の性教育講演会実施報告について

委員長： 議題にそって進行していく。

議題（2）「令和5年度性教育講演会の実施報告について」。

事務局から報告を受けた後、生徒の感想から目的を果たしているか審議いただく。事務局から説明をお願いします。

事務局： 学校では、生徒の発達段階に応じて、学習指導要領等に基づき性教育の授業を行っている。本日は、実施報告の前に、実際に学校ではどのように性教育の指導内容を計画し生徒に指導しているのか、また、性教育講演会の位置づけなどについて、指導主事の委員より、体育の教員の立場からお話いただく。

委員： 中学校では生徒が性に対して正しく理解して適切な行動がとれるようになることを目的に、主に保健体育の授業を中心に特別活動等、学校教育全体で取り組むことになっている。また、教職員の共通理解を図ること、生徒の発達段階を考慮すること、家庭と地域と連携すること。それから集団指導と個別指導を分けて指導することを明確にすることに留意しながら実施している。

学校ごとの生徒の実態や特性に応じた性教育を実施するよう、学校には依頼をしているところである。

国の方針を受けて、県の保健体育課の方でも、従来の性教育手引きのものから「性に関

する指導の手引き」の改訂版を作成して、小学校・中学校・高等学校へ活用を進めているところである。しかしながら、特に発達段階に関しては、個々による違いが大きいため、学校現場では性教育の内容について、男女への伝え方の違いも含め、苦慮しているところがある。

そのため、医師や助産師の方々等に行ってもらっている性教育講演会を通して、より具体的な内容に触れることで子どもたちのその後の生活に活かされていると捉えている。また、学校現場からも医療に関わる方々に講演してもらうことにより、生徒の関心も高く理解が深められていると聞いている。こうした性教育講演会があることに對し、学校の立場からも大変感謝している。

事務局： ただいまの委員からの説明を踏まえ、令和5年度性教育講演会の実施報告をする。急速に進む情報化社会において不確かな性情報が氾濫する中で、性についての正しい知識の普及を図ることを目的として、中学校の生徒や保護者を対象に性教育講演会を開催している。

性教育講演会の実施方法としては、昨年度の検討委員会で推薦された講師の中から、中学校の希望をもとに教育委員会が講師へ依頼し、その後各中学校と講師とで打ち合わせを行い、実施している。

今日までにすでに11校中9校において講演会を実施したので、実施した学校のアンケート集計結果とその内容について報告する。

参加人数は、令和3・4年度は保護者の参加は0人だったが、令和5年度は9校で保護者16人、生徒数1,045人、教職員83人が参加している。令和5年度から新型コロナウイルス感染症の対応により、保護者の参加も再開した。

講師が話したテーマとしては、男女の心と体の違い、性的マイノリティについて、自他の性を大切にすること、デートDVやストーカー被害等若年層での性課題について、思春期の心と体、妊娠と出産、性感染症の予防、医療現場での体験談の他、SNSの怖さや使い方にも触れ、学校の希望にそってお話いただいた。

また、アンケート結果にあるように、どの講師も学校の希望に応じていただき、講師の体験談や経験談を交えて生徒に語りかけてくださり、生徒たちがそれを真剣に受け止められたことが伺える。

生徒からも「自分ごととして考えられる内容」「無責任な性行動はいけない」「男女差別やLGBTQ+を考えて言動に気を付けたい」などの感想があった。

次年度以降の講演会に関して、専門家による講演を希望するか、の質問に対しては、終了した9校全学校から希望が出ている。

各学校からは、「学校職員が話しにくい性について、専門家から話してもらうことで、生徒が正しい知識を得られる良い機会」「性の多様性については生徒が表に出せない問題なので、こころの性と体の性（性自認）はそれぞれ違うことがあることを思春期のうちに知る機会があると救われる子供たちがいると思った」「性のことで困ったときの相談先を紹介してもらえると、今後の人生に役立つと思う」などの意見や市外の講師もお願いしたい、との要望もあった。また、ある中学校の保護者からは「自身の中学生時代に学べなかったことを現在は学べているため、幸せな環境で羨ましい」との意見があった。

以上で、令和5年度性教育講演会の実施報告を終了する。

委員長： 事務局から報告があったが、委員の皆さまから今年度の講演に関して審議いただきたい。

委員： 長い期間、この講演会を継続していることで、テーマや内容、保護者の意識も、最初と比較し、ずいぶん変化していると思う。

以前はこんな内容は話してくれるな、という時代もあったが、指導要領も変化し、最近
は、時代の変化と共に親の意識も変化してきた。この 10 年で変化したテーマの変化につ
いて事務局から報告していただけると良い。

10 年前はテーマにならなかったことや学校が希望していなかったことが、今は普通に話
されていたりするはず。リアルな言葉で伝えることすら嫌がっていた親がいた時代もある
が、今は違う。

性的マイノリティに対する理解が進み、社会が変わり、学校のニーズも変化していると
いうことを、10 年間だけでも構わないので、比較すると分かりやすい。検討委員会や教育
委員会にとっても社会の変化と共にやってきた成果としてみえるものがあるのではない
か。

最初に課長が話されていた、インターネットや SNS がなんの振るいにもかけられずに、
誰もが手に取れる時代だからこそ、初めに与えるものは正しいものであってほしい。

社会の変化、要望の変化によって、対策を打つということが必要だ。以前の性教育講演
会と今の講演会との比較をすることで見えてくる社会的な変化も知ることができる。

事務局： アンケートをまとめたものが、10 年分あるかどうか、あればそのようなものをまとめら
れるだろう。県内でも本市のように性教育を実施しているのは珍しいと聞いている。

委員： 横須賀市もやっているが、小田原市ほどは古くからではない。最近、横浜市が開始した
が、横浜市が開始すると、もっと大々的にアピールし始める。小田原市は粛々と実施して
いることを、もっと自慢して良い。

委員： 時代の変化と共に、SNS も最近始まったこと。時間がかかってもいいので、ぜひ性教育
の内容について、まとめてほしい。

事務局： どのような形でまとめられるかは分からないが、まとめてみたいと思う。

保護者の意識も変化しているとは思う。コロナ禍で、保護者参加ができなかった際に、ウ
ェブで見られるように、との意見もあった。

委員： 昨年度そのような話があったが、どうなったか。

事務局： 実際に講演しているところを撮影し、市のホームページ上にあげる、という話だったが、
それでは演者が守られないため、演者と同じテーマで話してもらえる人を探して、動画と
してホームページに載せることを、昨年度相談させていただいた。コロナ禍が過ぎて学校
で保護者等が生で聞ける状況となったため、このままライブで行うことを教育委員会とし
ては考えている。

委員： 暑い時に 1 度、学校内の web を使ってやったのだが、機材がもっと良いものがあれば良
いと思った。予算の関係から難しいことだとは思うが。

事務局： 実施する時期を考える必要もあると思う。学校の他の行事との兼ね合いもあると思うが、
できればライブでやれた方がよいと考えている。Web に切り替えることは、現時点では考
えていない。

委員長： 委員会もメンバーが変わる可能性もあるので、新しい委員が来た時にも、これまでの歴
史のようなものがあると良い。委員全員への配付をぜひお願いしたい。

議題（1）「令和 5 年度性教育講演会の実施報告について」は目的を果たしていると評
価し、次に議題（2）「令和 6 年度性教育講演会について」協議していく。事務局から説
明をお願いする。

（3）令和 6 年度性教育講演会について

事務局： 事務局より令和 6 年度の性教育講演会について説明する。

先ほどの議題（1）令和5年度性教育講演会については目的が果たされているため、来年度の性教育講演会は今までと同様に開催していきたいと考えている。

開催時期は、今年度と同様に6月以降とすることで調整したいと考えているが、可能な限り熱中症の心配がない時期での開催を検討いただきたいと考えている。

次に、講師は、市外の講師の要望もあったので、市外の講師1人を考えている。なお、長くご講演いただいた医師については今年度をもって市立病院から退かれることをうかがっている。

長い間、ご指導いただき感謝申し上げます。後任には、新たに別の医師に依頼予定である。以上のことから、令和6年度の開催時期及び講師、他に加えるべき内容等について検討をお願いします。

委員長： 令和6年度性教育講演会についてご審議いただきたい。

要望が無いようなら、そもそも体育館の環境について、エアコン設置はどうなっているのか。

事務局： 全校の体育館にエアコンは設置されていない。

委員： 箱根町の学校体育館には、暖房だけは設置されていると聞いたことがある。

委員長： 今すぐの施設環境の対応は困難なので、暑い時期を避けての講演会を考えてもらえばよいと思う。他に何か意見はあるか。

講演会の講師メンバーはこのように出ているが、他に講師メンバーとした方が良い講師や入れた方が良いテーマ等ないか。

委員： 役所の方々にお願いしたいことがある。私は産婦人科医の立場で講演会では「中学生が妊娠すると、こんなに大変」と話している。これまでも、2市8町の妊娠した子供たちを診た。真鶴町や湯河原町でも、このような性教育をやって欲しい。どの講師に依頼したらいいのか分からないのであれば、小田原市立病院から派遣することは可能である。小田原市役所から町へ話してもらえないか。

事務局： この性教育講演会は小田原市の事業であって、管内市町村でやっているものではない。ただ、「診療の立場から3町の方々も多いので、子供たちへの性教育の場について考えて欲しい、という意見があった」というようなことについては、何かの機会があれば話せると思う。

委員： 先日、保健福祉事務所で虐待の会議があった。その際「飛び込み出産」について話が出て、湯河原町や真鶴町の保健師も来ていて「性教育」についての話になった。その際、町は保健師がやっているということだった。小田原市の性教育講演会について、講師は助産師や産婦人科医が行っていると言えたところ、興味を持つ町もあった。

委員： 教育というところで知ってもらわないと。何かが起こってから、医療の現場に来てからでは遅いので。

事務局： 学校の立場で、養護教諭の先生は、いかがか。

委員： 私は、前任校が湯河原町だった。若年妊娠があることは把握している。足柄下郡の湯河原中学校、真鶴中学校、箱根中学校は、何らかの形で性教育には取り組んでいる。役場の保健師からの紹介で助産師も講師派遣してもらっている、全く何もしていない訳ではない。

委員： この3年間コロナのために市外の講師派遣ができなかったため、小田原市立病院の医師と助産師がほぼ全ての学校で性教育講演会を実施してきたため、皆同じレベルの話ができるようにしている。地域に密着したやり方としてご理解いただけるのであれば、是非周囲の町でもこのような話を広めていきたいと思っている。知り合いの方へでも話してもらえるとありがたい。

委員： 3町は各学校の養護教諭が、性教育の講師をどうするかコーディネートをしている。小田原市がこのような取り組みをしている、小田原市立病院の医師と助産師に講師依頼をすることが出来る、という情報共有自体は養護教諭間でできると思う。

事務局： 校長会としては、このような話題が出たということ共有してもらうことはできるか。

委員： 私の認識では、この性教育講演会の所管は保健給食課であり、講師を誰にするか、現場の養護教諭等からの意見を保健給食課が吸い上げて、講師依頼になると思っている。

学校の中では、担任の先生と養護教諭が子供と接することが多く、校長の立場からはその報告を受けることが多いのだが、本日皆さんの意見を伺いながら、小田原市の性教育講演会は本当に歴史が長く、この検討会も開かれているということ。皆さまプロフェッショナルな方が多く、男性・女性の性のあり方等ではリアルな話が聞けて、併せて今年度の計画一覧を見ても「多様性」や男性・女性の枠を離れて、性について振り返る機会を与えられた子供たちがいたことが、本講演会の意義やありがたみを、自分の立場からも感じている。本当に今は多様性である。LGBTQ という言葉ばかりが先走りがちと思われるが、実際中学生のなかでは、本当に深刻に考えているが言えない。保護者も色々な感覚の方がいるが、自分で考えると、こちらからの発信の仕方か、知らないだけではないのか。お子さんのことについて「こういうことなんですよ」と知らされることによって、保護者の意識や保護者の講演会への参加人数も少しずつ増えてくると思っている。

先ほど話があった保健給食課でまとめる資料についても、ぜひまとめていただき、学校は学校でできることをやっていきたい。

開催については、体育館は本当に暑くて、ある程度の決められた開催時期の範囲というものを、できれば年度内に教えていただきたい。中学生は定期試験や修学旅行等もあるので。先ほど、事務局の方から6月からとの話だったが、今年度の開催一覧を見ると6月7月に集中しているので、その辺りはどうなのか。

事務局： 開催時期は、こちらから指定しているわけではない。今年度の性教育検討委員会で決定した講師一覧を各学校へ送付し、講師・希望日を確認し、それを元に保健給食課が各講師と調整して日程と講師が決定している。

委員： 6月7日に集中しているため、暑い時期での開催となるのはどうなのか、と。

委員： 生徒指導の立場からすると、夏休みにそういうことが起きやすいので、その前に、ということで希望して、この時期になってしまう。

委員： 時期については、学校の希望ということで了解した。

事務局： 性教育講演会の時期については卒業式前という学校もある。

委員： 夏休み前か卒業前。どの学校も、一番心配な時期の前を提示しているのだと思う。

委員： 了解した。では、本日伺ったことを校長会でも伝えたいと思う。本日のまとめはもらえるのか。

事務局： 議事録をお渡しする。

委員： では、議事録を校長会で共有する。

委員長： 町の性教育という話があったが、医療だと県の保健所や市立病院が中心となるのだが、教育となると難しいのか。

事務局： 教育となると、県の教育委員会というよりは町であれば町の教育委員会に伝える程度になる。講師料等の準備が無い場合、行政の保健師が健康教育を行うことはある。実際に診療にあたっている委員や助産師に依頼したい、講師料はないがやってもらえるのか等の相談があれば対応できる。

委員長： 防災のことも市がやってくれているが、医療とのつながりが無いため、医療の部分は県

がやっているとか。虐待は県がやっけていて市がやっけていないこともあるとか。そういう意味では広域でとらえられるようなネットワークがあるといい。学校の単位では小さいが、病院という単位であると小田原市だけでなく町まで診ているため広域になる。市の考えも分かるが、このような良い活動については広めていきたいため、このような話が出たのだと思う。

事務局： 小田原市の取り組みについての情報提供を、市や町がそろそろ所でやらせてもらえるか確認することはできるかと思う。

委員長： やっていることを発信してもらうことが一番と思う。良いことをやっているのだから、例年とかなり違う話し合いになっているが、他の意見があるか。

委員： HPV ワクチンの接種が全然伸びてない。産婦人科医だけでなく、内科医にも発信してはどうか。性教育を保護者が聞いてくれているところもあるようだが、もっと来てもらった方がよい。なるべく来てもらって HPV ワクチンの話を聞いてくれたら、と。学校の先生からは発信し辛いと思うので、せつかく性教育で外部講師が来ている時に聞いてもらえることが一番だと思う。

事務局： HPV ワクチンについては、学校から直接接種のお願いはできないと考えているため、主に予防接種担当課から教育委員会を通して保護者に一斉メールで送信している。夏休み前等に予防接種の接種勧奨通知を行ったりしているところである。

委員： それで結構増えてきているようだが、まだ少ない。

事務局： この講演会に保護者が戻りつつあるので、積極的に参加いただくよう学校からも働きかけをしていただけると、なおありがたい。

委員： よろしくお願ひしたい。

委員長： 予防接種について一斉メールが送信できるのであれば、夏休み前等に何度かに分けて送信してもらい、それで接種率が上がるかもしれない。

委員： 私の病院では、少し遅いのではないかと感じる 20 歳を超えたキャッチアップ年齢ギリギリの人が多し。意識が高い人はキャッチアップ年齢に戻ってきて受けに来ているが、現在対象年齢の子供たちはきちんと受けられていない感じがする。対象年齢の世代の中学生が、全然増えない印象がある。これには、本人ではなく保護者に対する教育が必要だと思う。

事務局： 予防接種担当課に、本日このような意見をいただいたことについて伝えて、勧奨の機会を増やすようお願ひしたい。

委員長： 男子生徒がこの講演会を受けた後に HPV ワクチンを打ちたいということはないが、大きくなって男性が HPV ワクチンを打ちたいと言ってくるケースが増えるかもしれない。

委員： 男性は、有料で接種している。

委員長： 私のところへは、男性はこなし。

委員： 今の HPV ワクチンの関連で、確か小学校 6 年生の保護者宛に、ということでお便りを配付していた。メールもチラシもどちらもしていた、と 12 月に聞いた。

事務局： 担当課も、接種率向上のために取り組んでいるようだ。

委員長： 目にする機会が増えれば接種率も向上するか。でも、なかなか難しい。

委員： HPV ワクチンが難しいというのは、無料だからどんどん接種しなさい、となった結果、本人の意思を考えずに接種して、以前起きた副作用となつてしまった。今、市立病院に接種にくる子供たちは一応、納得して接種に来ているから、そこは以前よりも傾向として良い気もする。数字だけを求めるともっと上がった方がよいということだが、今はあまり納得しないて来る子供はいないために、副作用としても減つてきていると思うところもある。

委員： そう思う。

委員： 数字だけ見ると厳しいな、とも思うが、少しずつ良くなるかな、と。

事務局： 接種の安心感というのも広がると、接種率は少し違うかな、とも思う。

委員長： 性教育の時に HPV ワクチンのチラシを配付してしまうと、やりすぎになるのか。

委員： 実際に45分で話せる内容は限られてくる。チラシを配付すると、そればかり見て、それだけが残ってしまうため、どうかな、という気がしている。本当は、もう少し時間があって、というところだが仕方がないので。

事務局： 授業の1つとして実施しているので。申し訳ない。

委員： うちの助産師も皆、短いと言っている。

委員長： その他、意見はあるか。なければ、議長の任を解かせていただく。

(委員一同なし)

事務局： 事務局に進行を引き取らせてもらおう。議事は全て終了したが、今年度で最後になる委員がいるので、最後の委員の方から何か我々に託したいこと等あれば、お言葉として頂戴したい。

委員： 振り返ると2008年から講師をしている。はじめの頃は声がかからない年もあったが、ここ数年は1年に2～3回声がかかっている。自分の中でも話慣れてきてしまったところがあり、それでも手垢が付かないように少しずつ努力してきたつもりである。他の委員が言われていた通り、いつからLGBTQを話してきたか、HPVワクチンを開始した頃から話してきたと記憶している。事前に「うちの学校はうるさいですよ」と言われていても、意外と生徒は静かでいい子だった。皆さんに助けられて、ここまで来ることができたと思っている。色々なノウハウについては、我々の助産師たちには既に引き継いでやってもらっていると思うし、今度引き継いだ医師にも自分はこんな感じでやっているとお願いをして、ポリシーとしては色々な気付きを持ってもらおうのと、困ったら相談することをメッセージにしているので、願います。

(拍手)

事務局： 長い間、性教育講演会講師及び検討委員会にご尽力いただき、感謝申し上げます。お陰をもって、本講演会事業も目的に合ったことをやってくることができた。来年度以降は、更に充実した内容になるよう、努力してまいりたい。

事務局： 他に意見はないか。では、これをもって令和5年度の性教育講演会検討委員会を終了する。

以上